

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2770104053
法人名	医療法人 藤田好生会
事業所名	グループホーム いこいの家
所在地	〒590-0832 大阪府堺市堺区出島浜通35番地の1 (電話) 072-241-1177

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年10月5日
評価確定日	平成21年11月16日

【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 22 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日
ユニット数	3 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	27 人
常勤 18 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 16.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷金	(有) (100,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,333 円	

(4) 利用者の概要(9月 22 日現在)

利用者人数	27 名	男性	10 名	女性	17 名
要介護1	8 名	要介護2	10 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	59 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	堺フジタ病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人藤田好生会が運営する当該ホームは、「その人らしい自立した生活ができるように、温かい心で手をさしのべる支援をいたします」と理念に掲げ、少しでも長く自立した生活が送れる様に取り組んでいます。散歩を日課としており、利用者に合わせて、数人で出かけたり、マンツーマンで出かけ機能訓練も兼ねた支援になっています。利用者はホーム内の1階から3階をエレベーターを使用し自由に行き来し、皆が顔見知りで利用者から利用者へ優しい手を差し伸べる姿が見られ、毎日を穏やかに生活を送られている様子が窺えます。いろいろな所にソファや椅子が置かれてある事で利用者同士の会話も弾み、時には一人になれる空間もあり毎日を利用者本位の生活を支援されているホームです。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、出来ることから改善に取り組んでいます。課題であった理念については、職員間で話し合いを持ち、ホーム独自の理念を作り上げました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、ミーティングで話し合い管理者がまとめ、出来上がったものを職員に回覧しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者や家族、老人会会長、民生委員、地域代表、知見者、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから活動や行事予定、インフルエンザなどホームの状況について報告し、ホーム内で抱え込まず参加者からの意見を聞きサービスの向上に繋げています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に1回の家族会に多くの参加があります。家族の来訪も多くあり、その都度話しやすい雰囲気の中で聞けるように努めています。意見や要望があったときには、すぐに対応し申し送りノートで職員は共有しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホーム近隣に住宅が少なく自治会に加入するに至っていませんが、日々の散歩や地域での買い物などで声を掛けて頂き、積極的に挨拶を交わし交流が出来るように努めています。地域のだんじりを見に行ったり行事に参加しホームが孤立することのないように地域との交流ができるように取り組むと考えています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合い、「その人らしい自立した生活」と「温かい心で手をさしのべる支援」をホーム独自の理念として創り上げています。自立した生活への思いは、毎日の散歩での挨拶など地域生活の土台の上にあるととらえ、関わりを深めるようつとめています。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の支援に対する介護の十原則やホームの理念をエレベーター横に掲示しています。理念に基づいたケアが実践できるように毎月のミーティングや朝の申し送り時に話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム近隣に住宅が少なく、自治会に加入するには至っていませんが、日々の散歩や地域で買い物をして、声をかけて頂くなど、積極的に挨拶を交わし交流に努めています。また、だんじりを見に行ったり行事に参加し、ホームが孤立することのないように地域と交流ができるように考えています。	○	ホームで開催される夏祭りや運動会、消防訓練などに地域の方に呼びかけたり学習体験の受け入れなどホームに来てもらえるような取り組みを検討されてはいかがでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、ミーティングで話し合い管理者がまとめた。出来上がったものは職員に回覧しています。前回の評価を受け、出来ることから改善に取り組んでいます。課題であったホーム独自の理念は、職員で話し合い作成しました。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、老人会会長、民生委員、地域代表、知見者、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから活動や行事予定、インフルエンザなどについて報告し、ホームだけで抱え込まず参加者からの意見を頂きサービスの向上に繋げています。	○	会議録の記録は報告だけになっており、内容が書かれていません。出された多くの意見を記録に書き止める事で振り返りに繋がることもあり、記録の仕方を検討されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員は、グループホーム連絡会の勉強会にも参加されており、情報交換の機会となっています。また、ホームでの困難事例など気軽に相談できアドバイスを頂いています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料を持参される家族が多く、来訪時にはホームでの様子を報告しています。また、来訪ができない家族には、毎月の請求書と共にコメントを添え、様子を郵送で伝えています。金銭管理は預かり金対応で請求書と共に領収書を送付し、入金時に出納帳を見てもらっているが、確認の記録は残されていません。	○	出納帳は、入金時に見てもらっただけでなく印鑑やサインを頂き、来訪出来ない家族にも出納帳を毎月の請求書と共にコピーを送付するなど誤認がないように検討されてはいかがでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回の家族会に多くの参加があり、家族の来訪も多く、機会を見つけて出来るだけ意見を聞きだすように努めています。意見や要望があったときには速やかに対応し、申し送りノートで職員は情報を共有しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3フロアーに分れるユニットを、利用者は自由に行き来し、職員は3か月ごとにユニット間の異動があります。職員と利用者はホーム全体を通じて馴染みの関係を築いています。入職時や退職時に職員は、利用者へ挨拶をして説明しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修計画に着手し、職員研修を積極的に取り組もうとしています。資格修得にも配慮し、外部研修では該当する職員が順番に参加できるようにしています。参加後は、職員会議で発表し伝達研修していますが記録は残されていません。	○	研修参加後は、伝達研修に参加できなかった職員にも資料や報告書がいつでも見られるように記録として残されることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会が2ヶ月に1回行われており、管理者や職員が参加しています。勉強会や情報交換を行ない、サービスの向上に活かすとともに、運営推進会議に他のグループホーム職員の参加があるなど、実務面での交流がありサービスの向上に活かされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当っては、利用者の意思を尊重することでその後の安定につながると考え、長期の体験入居も含め見学を勧めています。病院や施設からの入居の場合は訪問を重ね、利用者の気持ちを大切に考えています。入居後は職員の工夫や利用者の力も借りながら少しずつ馴染んでもらえるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に暮らしていく中で、何でも一緒にするようにしています。食事の準備や後片付けなど多くの事を学んでいます。また、利用者同士で自然と手を差し伸べ支え合う様子を見て職員は改めて支え合う関係を考えています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に家族や利用者から多くの情報を得ています。利用者本位の生活ができるように会話の中や表情から把握できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見を取り入れ、ケアチェック表やアセスメントを利用しながら、カンファレンスで話し合い介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月に1回は定期的な見直しを行い、状態に変化があったときには随時見直しをしています。3か月ごとのモニタリングで職員の意見や利用者の変化、気づいたことなどをまとめ経過がわかるように記録が残されています。また、3か月ごとのカンファレンスで職員は意見をまとめ見直しに繋げています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない通院介助や、ドライブ、買い物、コンビニに行ったりラーメンを食べに行くなど希望や要望があれば、その時の状況に応じて支援ができるようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を継続できることを説明しています。法人の病院と24時間連携が取れており、相談や緊急時の受診も可能で安心して医療が受けられる体制を持っています。2週間に1回、受診に行き訪問歯科や訪問眼科は必要に応じて利用しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームでの方針や状態に変化があれば法人の病院での対応ができる事を説明しています。医師や看護師も顔見知りのため家族との話し合いを持ちながら方針を共有し支援しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録は鍵の掛かる事務所のロッカーには保管しています。言葉遣いには特に注意し、周りにも配慮し思いやりの心を持って状況に応じた対応ができるように心がけています。利用者によっては、呼び慣れた名前や親しみを持って「ちゃん」付けで呼ぶこともありますが、家族に了解を得ています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来れば何もしたくないといわれる利用者に、声をかけながら日々の散歩や居室、フロアの掃除を日課とし、利用者のペースやリズムに合わせて過ごして頂いています。ホーム内を自由に移動しながら、好きな所で一息ついたり気の合う利用者同士で会話を楽しみ希望や要望に応じた支援ができるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭き、器を並べ、お茶を出し、洗い物、食器拭き、ほとんどの利用者が出来る事に携わり、職員と一緒にしています。職員は、利用者と同じ食事をすることについて話し合いを持ちましたが、一緒に食べるには至っていません。	○	食事は利用者が一番の楽しみ事であり、法人やホームの方針等もあるかと思われませんが、出来れば一緒に食事を楽しめるよう再度、話し合いをされてはいかがでしょうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、14時から16時が入浴の時間となっています。利用者数人で入れる大きな浴槽や個浴があり、利用者の希望に応じて入れる様にしています。時間や夜間の希望に応じる体制にはありませんが、拒否傾向の利用者の入浴に繋げる支援に努めており、無理強いせず職員の上手な声掛けで誘導し入浴へと繋げています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全利用者が居室やフロアの掃除を役割として日々行っています。食材を病院まで取りに行くことや水まき、テーブル、椅子拭きなど出来る事に備わってもらっています。また、カラオケや毎日の散歩を楽しみにしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	数人一緒に散歩や利用者の状態や状況に応じてマンツーマンで毎日散歩に出かけています。週に1回の買い物やコンビニ、遠足、お花見など季節に応じて出かけられるようにしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前は国道沿いにあり、安全確保のため家族に了解を得て施錠していますが、利用者はホーム内1階から3階をエレベーターを使い、自由に移動しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下、年に1回避難訓練をしています。ホーム独自でも年に1回、昼間想定して災害対策や避難経路、緊急連絡体制、通報の仕方など訓練をしています。また、地域の方には避難場所を聞いていますが、協力体制を得られるには至っていません。	○	運営推進会議などで話題にし、AEDの使い方や避難訓練を一緒に出来るように取組まれるなど、地域の方の協力を得られるように働きかけることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事は記録し、水分は居室にお茶を置いている利用者もあり、時間を決めて摂取できるように声掛けしています。また、法人の管理栄養士が立てた献立で管理されており、利用者に応じてお粥の提供もしています。利用者の病歴に応じて医師からアドバイスももらい支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーター前や廊下など多くのソファや椅子を置き、一人でも利用者同士でも仲良く会話を楽しまれ、好きな場所で寛ぐ様子が見られ家庭にいるのと同じように過ごされています。職員が器用に作った切り絵が季節を感じ、行事での楽しい様子の写真が飾られています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後、職員と利用者が共同で作った表札が掲げられています。テレビや筆筒など今まで使っていたものや大切にしていたものを家族と相談しながら持ち込んでもらっています。カーペットを敷きテーブルを置いたり、家族との関わりを大切にすため携帯電話を持ち込んだり仏壇を置き毎日拜んでいる利用者もおられ個々に合わせ工夫しています。		